

巻 頭 言

東北文化学園大学医療福祉学部看護学科の紀要は、平成 24 年 3 月に第 1 巻が発行されてから毎年発行され今年が 7 年目になる。

看護が科学と言えるのかということが、かつて言われてきたことがあり、歴史的に科学技術の発展により飛躍的な進化を遂げた医学の陰で、看護は独立した学問とは認められなかった。看護学として認められてきたのは 20 世紀後半になってからである。従って、看護学の歴史は浅く、医学、社会学等の周辺領域の知識や研究成果を借りることで発展をしてきた。

しかし、今や看護学関連の学会は 300 に達しようとしている。様々な看護の分野で多くの看護職が貪欲に研究に取り組み、学問としての更なる発展に寄与している。このような状況の中で、けん引役としての看護系大学・大学院の果たす役割は非常に大きく、益々看護教員の資格や実力が問われてくることだろう。

紀要は、それぞれの大学・大学院における若い研究者らに発表の場を提供してきている。特に看護教育の世界に飛び込んだ若い研究者が、学生への新たな教育方法の検討、評価などを発表する場として紀要の果たす役割は大きい。

看護学が、今後発展を遂げていくためには、自らの研究成果による手法で育てた学生が、患者のケアを通して看護の実践家として輝やいてくれることが重要であり必要である。

我々は社会の要請として、質の良い看護師を育てる役割を担っている。そのための効果的な教育方法の開発が、東北文化学園大学医療福祉学部看護学科の紀要の中から生まれることを切に希望する。

教育（臨地実習指導も含め）と研究活動の両立の困難さを承知で、あえて若い看護学研究者にエールを送る。

平成 30 年 3 月吉日

看護学科 菅原美知子